



インターネット調査の特性 ～面接－ネット並行調査～

毎日新聞・世論調査室 福田昌史
インフォプラント・RQI 出口慎二

本報告の内容

1. 比較調査の概要
2. 結果の比較
3. まとめ

1. 比較調査の概要

比較調査の概要①

◆両調査の実施概要

	毎日（面接）	インフォプラント（ネット）
調査タイトル	・時事問題世論調査（面接） ・読書世論調査	社会や政治、生活に関するアンケート
調査期間	9月1, 2, 3日	9月1日10:30~3日22:30
調査手法	訪問面接（時事問題） 留め置き（読書）	ボランティア型アクセスパネルを用いたインターネットリサーチ（期間設定型）
調査項目	計15問	計35問
	①政治に関する質問（小泉政権の評価など）	
	②年金制度に関する質問	
	③裁判員制度に関する質問	
インターネットの利用、1日平均利用時間（読書世論調査）	・一般的な考え方や消費価値観に関する質問 ・電話やインターネットなどの利用状況に関する質問	

比較調査の概要②

◆対象者の抽出

	毎日（面接）	インフォプラント（ネット）
抽出方式	層化2段無作為抽出	
地域の層別	・全国の市区町村を都市規模・人口規模によって、4つの層 ①大都市（東京23区、政令市）②中都市（人口20万人以上の市）③小都市（人口20万人未満の市）④町村部に分ける ・人口規模に応じて300の地点を各層に配分	
第1次抽出単位（地点）	大字・町・丁目	市区町村
地点の抽出	系統抽出	系統抽出
対象者個人の抽出	住民基本台帳から、16才以上の対象者を地点あたり16人を抽出	地点あたり12人を無作為抽出 ※調査対象となる地点の会員数が一定数を下回る場合は、次の地点と合併して1地点と見なし、対象者を抽出

5

061111行動計量学会シンポジウム

両調査の回収状況

全体で見ると、面接58%（2,665）、ネットは44.3%（1,593）

面接		都市規模	面接	ネット	
性別	回収 (%)		回収 (%)	配信数	回収数
男性	56.0	大都市	50.6	864	385□(44.6%)
女性	60.2	中都市	57.8	948	416□(43.9%)
		小都市	59.7	1392	619□(44.5%)
		町村部	69.2	396	169□(42.7%)
年代	回収 (%)				
20代	46.9				
30代	52.6				
40代	58.0				
50代	64.4				
60代	63.7				
70代以上	60.3				
住居形態	回収 (%)				
一戸建て	61.7				
集合住宅	45.6				

■面接の回収の特徴

- 性別では、女性がやや上回っている
- 年齢別に見ると、一番高いのは50歳代の64%。20歳代は5割を切っている
- 集合住宅に住む対象者からの回収は5割を切る

■ネットの回収の特徴

- 都市規模による回収率の差は見られない

6

061111行動計量学会シンポジウム

2. 結果の比較

比較を通して知りたいこと

一回きりの並行調査では分かることは限られるが・・・

- データ収集方法としてのネット調査の特性
- 面接調査の回答者集団と比較した、ネット調査の回答者集団の特徴（結果の単純な比較）
- 面接調査の回答者の中のネットユーザーの意見と、ネット調査の回答者との比較
- ネット調査のサンプリングフレームがボランティア型である影響は見られるか

比較の前に、誤差について・・・

◎調査の主要な誤差の概観

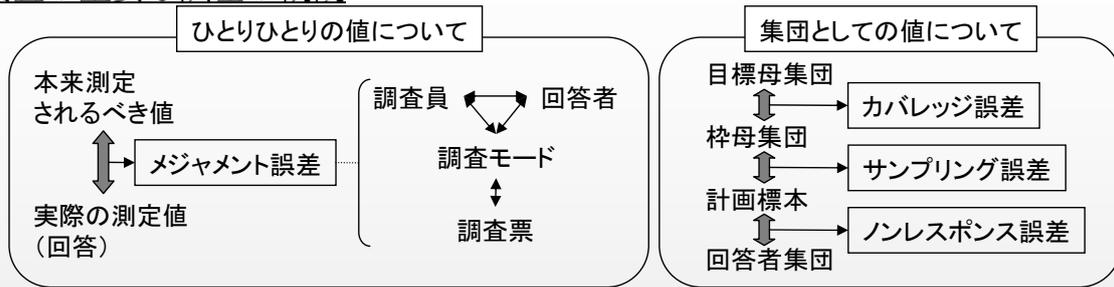


図1. 調査の過程を構成する要素と誤差の概観

◎今回の比較に関する誤差

今回の比較調査では、どの誤差が、どの程度影響しそうか・・・

	誤差の種類	面接	ネット	備考
集団としての値に関する誤差	カバレッジ誤差	ほぼゼロ	大	面接とネットでは、目標母集団に対するカバレッジは決定的に違う
	サンプリング誤差 (標本誤差)	小	小	(ネット) アクセスパネルがある程度大きく、抽出標本数がいずれも同程度の場合
	ノンレスポンス誤差 (無回答誤差)	中?	中?	全体的な回収率、あるいは「属性による回収率の違い」に、面接-ネット間で差がある可能性 回答する集団/しない集団間の回答の離れ具合に、面接-ネット間で差がある可能性
ひとりひとりの値に関する誤差	メジャメント誤差 (測定誤差)	中?	中?	自記式/他記式の違い (調査員の介在の有無、音声情報 (ことば) のやりとりの有無)

比較するにあたって・・・

比較が難しい

比較が可能

比較が難しい質問—無回答オプションの影響①

- 面接調査では、「わからない」等の選択肢は設けていない（読み上げていない）。
- ネットの調査画面では、一部の設問で、「わからない」「この中にはない」「いずれでもない」という選択肢を入れた。

※「ネット調査」は自記式ではあるが、質問を飛ばすことを禁止するなど、調査の進行をコンピュータが制御している

11

061111行動計量学会シンポジウム

無回答オプションの影響②

無回答オプションの有無が最も影響を与えた質問は…

問10 国の年金制度を維持するためにはどうすればいいと思いますか

	面接	ネット
1. 現役世代の負担を引き上げ、給付水準を維持する	27	13.3
2. 給付水準をカットし、現役世代の負担は増やさない	40	36.3
3. 現役世代の負担を引き上げ、給付水準もカットする	17	18.0
わからない		32.4
無回答	16	

→「意識の差」というより、データの測定方法、DK/NAオプションの有無による影響が大きい

→このような質問では、比較は難しい

12

061111行動計量学会シンポジウム

比較が難しい

← 測定方法・データ収集方法の違いの影響が大きい場合
(パネル対象のネット調査自身が抱える問題ではない)

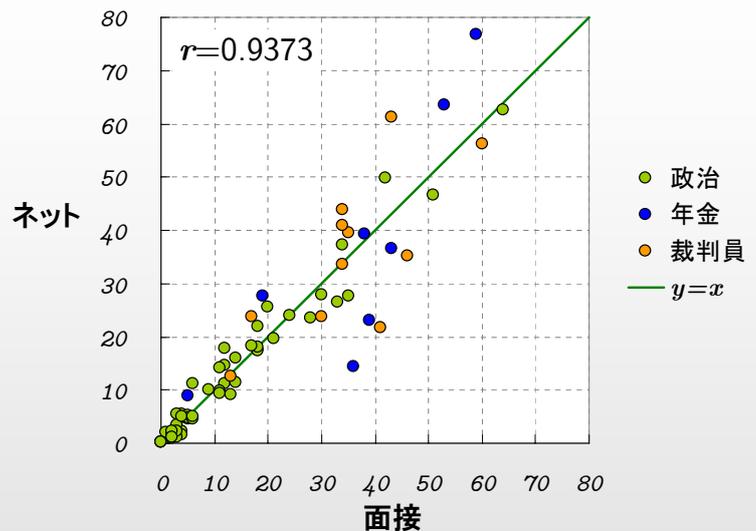
比較が可能

回答傾向が近い

回答傾向に差がある

比較一概観

無回答オプションの影響が
少ないと思われる、13問・
70項目の回答比率をプロット

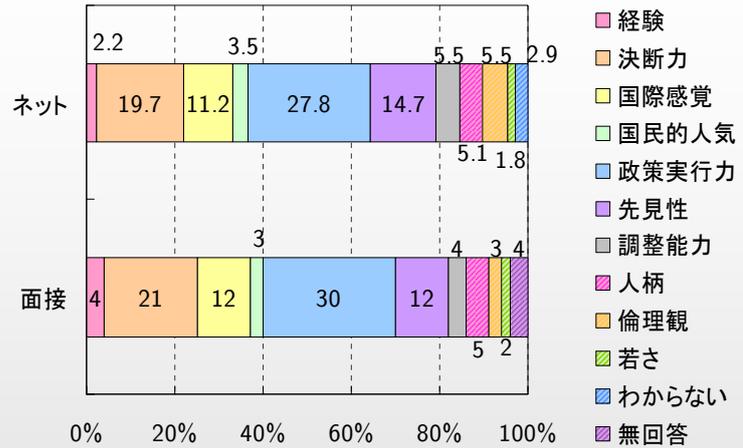


→ 「●政治に関する質問」は45度の直線付近にまとまっている。

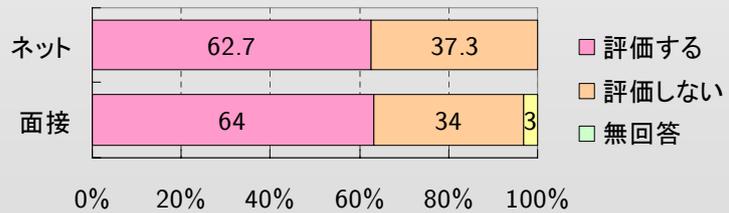
→ 「●年金に関する質問」、「●裁判員制度に関する質問」でばらつきが大きい。

比較（回答傾向が近い）－政治に関する質問

問2 次の首相に必要な資質

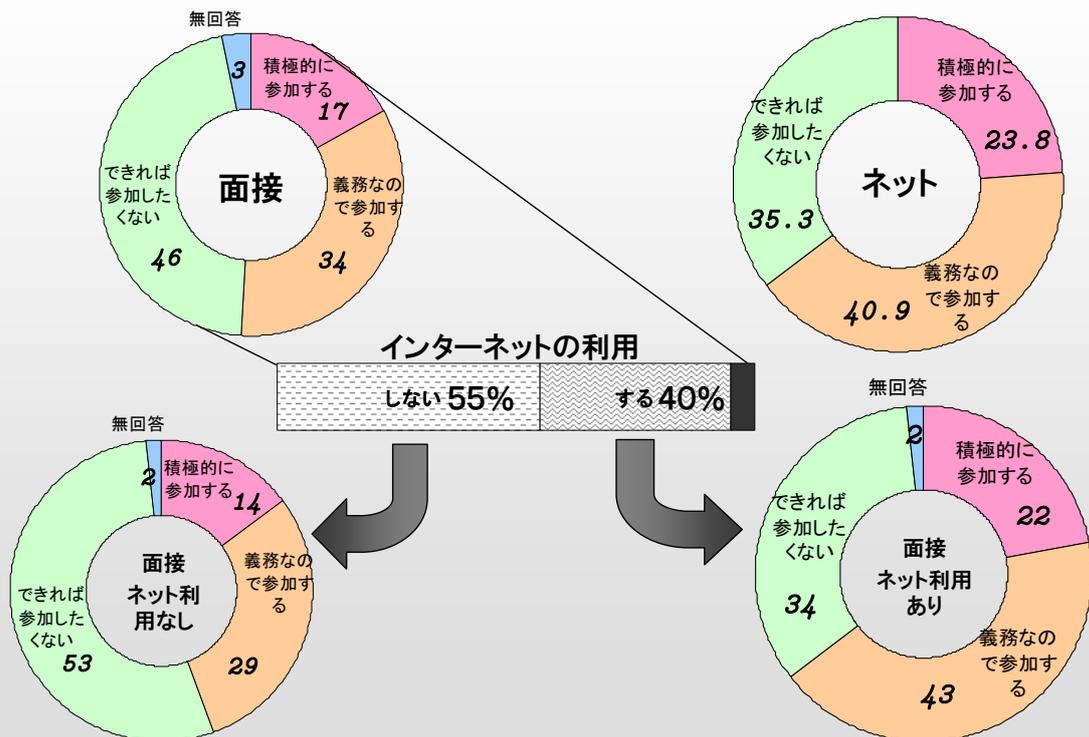


問3 小泉政権を評価するか



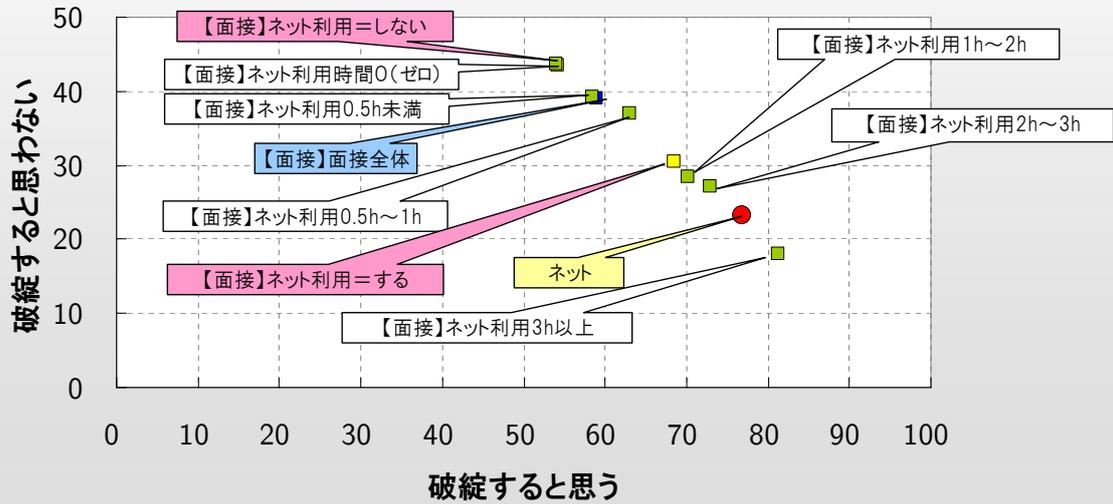
比較（回答に差がある）－裁判員制度に関する質問

問 裁判員にどのような姿勢で臨むか

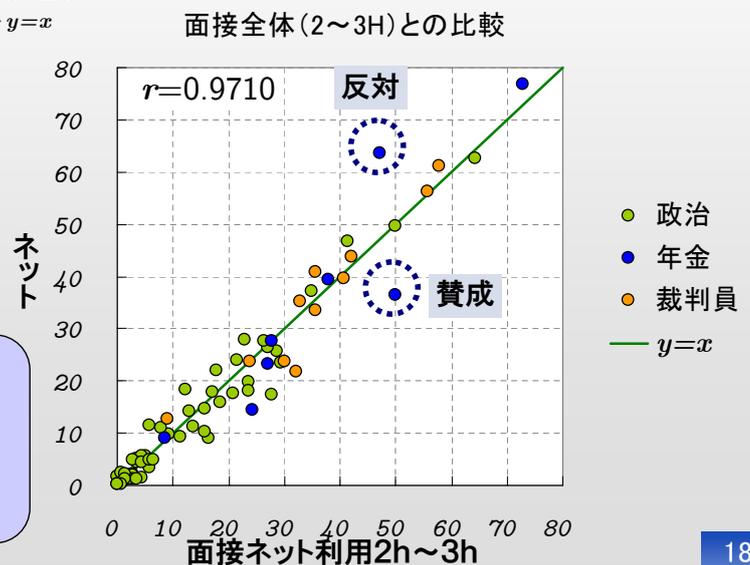
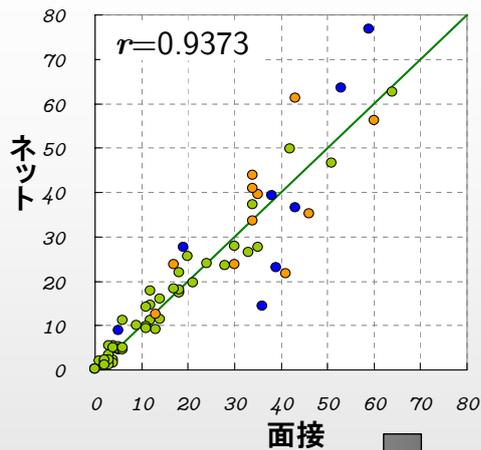


比較- (回答に差がある) 年金制度は破たんすると思うか

	ネット	面接全体	【面接】ネット利用		【面接】ネット利用時間(単位:時間)					
			する	しない	しない/ 無回答	0.5未満	0.5~1	1~2	2~3	3以上
破綻すると思う	76.8	59	69	54	54	58	63	70	73	81
破綻すると思わない	23.2	39	31	43	44	39	37	28	27	18
無回答		2	1	2	2	2	0	1	0	1



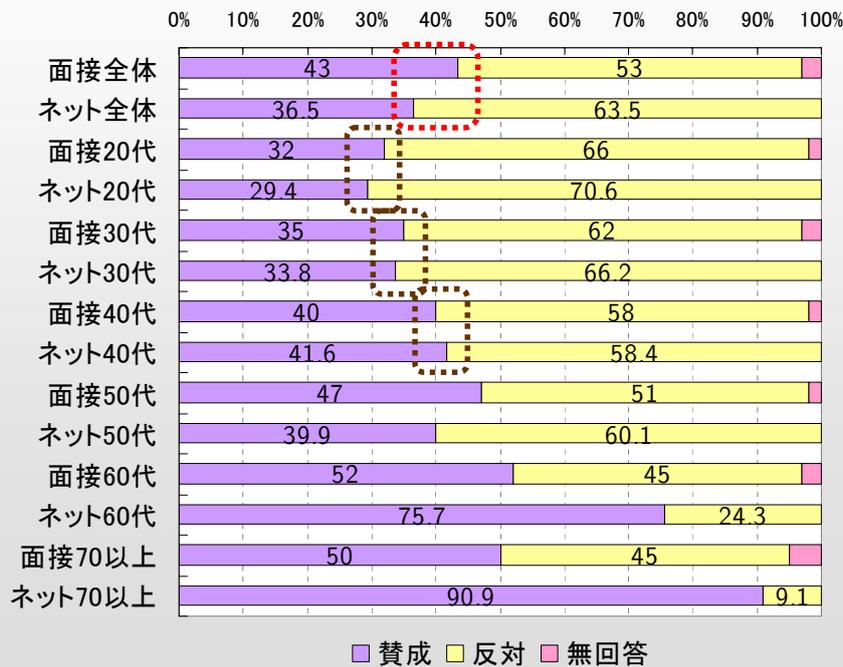
比較 プロットはどうなる？



問13 消費税を社会保障目的税化して引き上げ、年金の財源にすることが議論されています。あなたはこの考えに賛成ですか、反対ですか。

比較一問13消費税を引上げ年金の財源に？

年代別に見てみると・・・



- 20代、30代、40代の回答はほぼ一致
- 高年代層はネットでの回収数が少ないため数字が不安定

→ 「面接全体」と「ネット全体」の差は、ネット利用度による差ではなく、回答者集団の年齢構成の違いによるものだった。

3. まとめ

まとめ 質問を分類してみる

①

比較が難しい

← 測定方法・データ収集方法の違いの影響が大きい場合
(パネルネット調査自身が抱える問題ではない)

比較が可能

②

回答傾向が近い

← ネット利用度との相関が低い質問

回答傾向に差がある

③

ネット利用度で説明可能

← ネット利用度との相関が高い質問

④

他の属性で説明可能

← ネット利用度より、他の個体属性・特性との相関が強い質問
(その「特性」と「調査参加」の相関の高さが差を生む)

⑤

他の属性でも説明不可能

⑥

③～⑤の組み合わせ

21

061111行動計量学会シンポジウム

まとめ・議論①

- なぜ「面接」と「ネット」で差が出たのか、今回使用した全ての質問で解釈可能だった。
- 「従来型調査の対象者の中のネットユーザーの意見は、ネット調査のパネルの意見とは違う」という報告もあるが、今回の比較結果を見る限りはそれほどでもない。
- また、パネル調査回答者は「意見を言いたい人たちの集団」「そのテーマに興味がある人たち」、「小遣い稼ぎ目的」などとも言われている。面接回答者はそのような性格は弱いだらうと考えられるが、それでも注意深く見比べると、面接回答者の中にネット回答者と同様の意見を持つ層が存在する。

22

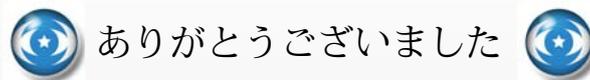
061111行動計量学会シンポジウム

まとめ・議論②

- 面接からネットの結果はある程度予想できるかもしれないが、ネットから面接の結果を予想するのはまだ難しいかも。
- 同じ質問を繰り返し使い、傾向をつかむことによって、若い層（今のところ、40代くらいまでか）の意見を収集するのにネットは有効。
- 将来、ネット利用層の年代が上がるにつれて、差が縮むことが期待できる。その反面、ネット利用度・関わり方の多様性は無くならないだろう。→「ネット利用度従属型質問」の差は残る。（ネットを使わない人も必ずいる）
- 面接で「ネット利用度と相関が高い質問」はネット調査でも同様の傾向が見られるか、どの程度あるか、確認必要
- 異なるネット調査会社での検証や、他の質問での検証も必要

23

061111行動計量学会シンポジウム



(参考)

Biemer, P. and Lyberg, L. (2003). *Introduction to Survey Quality*. New Jersey: Wiley.

Groves, R. (1989). *Survey errors and survey costs*. New York: Wiley.

Groves, R., Fowler, F., Couper, M., Lepkowski, J., Singer, E. and Tourangeau, R. (2004). *Survey Methodology*. New Jersey: Wiley.

本多・本川(2005)「インターネット調査は社会調査に利用できるかー実験調査による検証結果ー」,(独)労働政策研究、研修機構

前田・大隅(2006)「自記式調査における実査方式間の比較研究ーウェブ調査の特徴を調べるための実験的検討ー」,ESTRELA,2006.2

24

061111行動計量学会シンポジウム